

会議状況等報告書							報告者	森川 陽子			
会議の名称		令和5年度第1回大府市文化懇話会									
日時		令和5年6月23日(金) 15時00分～16時30分					場所	委員会室1			
出席者	委員	安田 文吉	加藤 武志	伴 恵	間瀬 結子	越後谷 卓司	張 悦	山内 副市長			
		○	○	○	○	○	○	○			
	事務局	近藤 部長	田中 課長	永露 係長	小野 主事	森川 主事	小田原 館長	内藤 館長	松井 館長		
		○	○	○	○	○	代理出席 水谷学芸員	○	○		
傍聴者 0名											
内容											
<p>1. あいさつ</p> <p>◆加藤武志座長あいさつ 今年度も屈託ない意見交換ができたと思うのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>◆安田文吉先生あいさつ 新型コロナウイルス感染症について、数ばかりが取り上げられているが内容が大切である。重症なのか風邪程度なのかわからないので、きちんと分かるように取り上げてほしいと思っている。また、会話やコミュニケーションは文化の発展につながると考えているため、子どもや高齢者がマスクを外せないことにより顔を見て話ができないことが心配である。</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 令和4年度下半期事業実績について</p> <p>・資料No.1-1、1-2、1-3に基づき事務局説明 (各施設からの補足)</p> <p>愛三文化会館館長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おおぶ映画祭」は自主映画の応募が134点と前年より減少したが、その原因として要件を絞ったからと考えている。今回はLGBTを題材とした作品が多かったように感じて特徴ある年だった。 ・映画を制作する関係者からは高い評価を得た作品でも、集客数は伸びなかった。 ・今回は会場までのエントランスでカンヌ映画祭をイメージしてレッドカーペットを用意する演出もしたが、参加者を増やすための根本的解決にはもう一工夫した宣伝が必要だと思った。 ・今後、自主映画になじみのない市民でも来館してほしいため教育委員会から昭和40年頃の大府を記録した8ミリフィルムを借りて上映することを予定している。 <p>アローブ館長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の練習を続けてきた方や、「大府の笑学校」で落語を習ってその後も続けてきた 											

子たちへ、観客の前で発表する機会を設けたことがアローブの事業の特長だと考えている。「こもれび寄席」では笑学生落語クラブのメンバーに前座を務めてもらい、また保護者に出囃子を生演奏してもらった。

- ・令和5年も引き続き市民の日頃の活動を発表する場を設けていきたいと考えている。

委員)

- ・「こもれび寄席」は久しぶりの寄席だったため集客が難しかったが、なんとか満席だった。長年「大府の笑学校」で積み重ねてきたことがアローブの自主事業に参加するということにつながったのではないかと思う。

歴史民俗資料館館長) (代理 事務局)

- ・「大倉陶園展」について商工会議所と共催として開催したことにより、歴史を共有できた。また商工会議所のホールで記念講演会を開催し良いコラボレーションになった。

〈意見交換〉

委員) 「おおぶ映画祭」について関係者に高い評価であっても集客につながるとは限らない。名古屋シネマテークが今夏閉館することなどから、どこでも集客には困っていると思われる。大府市の8ミリ映画を見に行った時に50年前の模型が映っていたが、当時は駅前に映画館が2館あった。現在では0館であるため、状況が厳しいことがわかる。そのため公的なもので映画を続けてほしいと思っている。近年では配信で内容を見ることはできてしまうが、スクリーンで上映すること、映画館に身を置くこと、映画館の空間を体験することが重要であると考えている。

委員) 歴史民俗資料館の事業で質問がある。2ページ「オーティズム・アート展 2023」について、歴史民俗資料館の事業の来場者数日割りは100人前後だが、この事業だけ230人だった。なぜこのような結果になったか教えていただきたい。

事務局) 岡崎市とコラボレーションをしたことも要因のひとつと考える。講師でお招きした辻井先生は、積極的に子どもが参加できるワークショップを開催したり、展示がとても工夫されていた。良い形で展開できたと思っている。

委員) 大倉公園での事業のほか、アローブでの事業のいくつかに参加した。どの事業でも歴史や芸術を身近に感じることができて良かった。大倉公園での企画は、実際に歴史に関わる場所での展示であったため分かりやすかった。ただ、来場者のなかで外国人が少ないように感じた。外国人をどう呼び込むかが課題だと考える。落語の寄席もよかった。「こもれび寄席」では外国人の噺家(登壇者)はいないのか。

事務局) 外国人の噺家(登壇者)は今のところいない。

事務局) 子ども落語教室の参加者の中には外国人の子もいた。また、海外生活を過ごして日本に帰ってきてから落語をやりたいという人が多いと感じている。海外の文化に触れて日本の文化も知りたいと参加する動きがみられる。

委員) 先ほどの外国人参加者が少ないという課題に対して、外国人にも知ってもらうにはどのようにしたらいいと思うか。

委員) 前例を作ると良いと考える。落語でも一人外国人に登壇してもらうなど。国際交流協会でも、直接ではないが料理などを通して国際交流をすることもある。今後も参加者を募って外国人へ文化事業を広めていけたらいいと思った。

委員) 2ページ「オーティズム・アート展 2023」に参加した。学生が多く参加しておりパワーを感じた。大府市は福祉にも力を入れているので福祉関係者も来場が多かったと思う。メタバースも面白かった。今年度、国の補助金を活用し2件メタバースの事業を行うことが決まっている。

助言者) 4ページ「趣味の入門」と「文化講座」について、どんな風に展開しているか、参加者の年齢、参加者数、その活動は何年続いているのかなどもう少し細かく報告をしてほしい。例えば「オリーブ」だけでは何のことか分からないため、具体的に報告してもらいたい。

委員) 文化協会の文協まつりではたくさんの人に来ていただいた。茶華道をもっと広めたいと考えており、産業文化まつりで呈茶ができないか交渉をしている。子どもが親子でお茶を楽しんだり花を挿せたら良いと思っている。8月6日に茶遊会が開催する茶会が決まった。前回の来場者数が90名だったので、今回は100名程の来場者を期待している。愛三文化会館では再来年県民茶会の開催が決まった。どのぐらいの市の参加があるかは不明だが、積極的に考えてなるべくたくさんの席ができたらと思う。

委員) 来場者で外国人はいるか。

委員) 来場者では見かけないが、個人的には興味があるからとお茶の体験会に来る人はいた。先ほども話に出たが、海外から帰ってきた人が日本の文化を学びたいと体験しにくる印象がある。また、チェリストの佐藤桂菜さんが茶会の裏方に参加してもらったことがあった。茶会について知ってもらえて嬉しかった。

助言者) いろいろ話に出た文化事業には活気がある。活気を大事にしたいと思う。落語を外国人が体験したという話には驚いた。シャレ(同音異義語)を理解しているのはすごいと思う。鈴木バイオリンの事業については、大府市がバイオリンに関わっていることなどポイントを押さえて取り組んでほしい。共通認識を持つことが大事である。

(2) 令和5年度事業計画について

・資料No.2に基づき事務局説明

〈各施設からの補足〉

愛三文化会館館長)

9月3日に「加古隆 50thアニヴァーサリーYear～ソロ&クアルテットの世界」を開催予定である。事前の問合せは県外からが多いので、市内の来場者をどのように増やすか戦略的に考える必要がある。どういった人にネームバリューがあってどうしたら売れるのかなどを考えていきたいと思った。

アローブ館長)

「おおぶトークライブ」としてウクレレコンサートを開催する。ウクレレはハワイの音楽によく使用されるためゆったりとしたイメージがあるが、コンサートを聞くと「思ったより激しい音楽で驚いた」といった感想もあり、ウクレレの多様な音色を楽しんでいただけたらと思っている。

〈意見交換〉

助言者) 令和5年度の事業計画を見ると予定が盛りだくさんで熱気を感じる。大きい市では実現が難しいことでも大府市の規模だからできることもあると感じている。

委員) 文化交流課に質問がある。デジタル田園都市国家構想総合戦略について国から通知があり、大府市でも「ひと・まち・しごと創生総合戦略」が抜本的な改訂になると思うが、この先デジタル化の取り組みについて文化の分野においても文言や指標が加わることはあるか。

事務局) メタバースをどう進めるかということも含めて、具体的にデジタル化がどういう形になるかはこれから詰めていくことになる。一方で、企画を進めていると同時に技術も進んでいるので、どういう形でまとまるかはまだ分からない。

委員) 自分はアローブの育み隊もしているが、アローブの発券システムやオンライン講座など着実にデジタルの波は取り入れられていると感じている。ただ、まだまだインターネットのWi-Fi環境が不安定なので改善されると良いと思う。

事務局) オンライン会議でうまくできないという意見があるなど苦労しているのが現状。太いインフラを整備するにはそれなりに費用がかかるので今後市と協議していきたい。

委員) 子どもと話した際に全員タブレットを持っているので、家でWi-Fiがない子が図書館で使用できたらいいという声もあった。

委員) 学びの場として学習室を使われているのでそういう声を参考にできたら良いと思う。

委員) 現在、国はDXや少子化に力を入れており、大府市でも「デジタル化実施計画」を作成している最中である。今年度はソフトバンクと契約しており、また成果をまとめて報告できたらと考えている。ハード面とソフト面の両方とも整備には費用がかかる。これから計画を上げて精査して進めていく予定である。

委員) 感想になるが、基本施策の柱の4つ目「大府の良さの継承と活用」は以前盆踊りだけだった。その後、歴史民俗資料館が入り大府らしいディープな話が増えたと感じている。私自身大府市民ではないが、触れてみたいと感じる大府市のルーツが増えたのはとてもいい事だと思う。先ほどの日本文化の話しでも大府らしい「落語」や「歌舞伎」などよその町で行うのはなかなか難しい事業を長年続けていることはすごいと思う。また、そのような事業が文化を育む土壌に着実になってきていることを嬉しく思う。

3. その他

【次回開催連絡】

第2回大府市文化懇話会

令和5年10月26日(木) 午後3時30分～